

臨床に役立つすぐれモノ

デンチャーマテリアル

Trusana

Hironao KIYU

亀遊宏直

富山県・キユウ・デンタル・スタジオ
歯科技工士

Takamichi SASAKI

佐々木隆通

石川県・佐々木歯科医院
歯科医師

DENTAL
DIAMOND

第51巻第11号通巻765号・2026年8月号

発行所 株式会社デンタルダイヤモンド社



Hironao KIYU

亀遊宏直

富山県・キユー・デンタル・スタジオ
歯科技工士

Takamichi SASAKI

佐々木隆通

石川県・佐々木歯科医院
歯科医師

●デンチャーマテリアル「Trusana」

※価格などの詳細については
下記へお問い合わせください。

[問い合わせ先]

株式会社フォレスト・ワン

〒274-0825 千葉県船橋市前原西2丁目19-1

津田沼ビート4階・5階

TEL 047-474-8105

<http://www.forest-one.co.jp/contact-form/>

デジタル技術を活用した フルデンチャー製作における設計と臨床 — 歯科医院とのデジタル連携 —

近年、歯科技工分野におけるデジタル化は急速に進展し、従来クラウン・ブリッジ領域を中心に発展してきたCAD/CAM技術は、インプラント補綴、矯正装置、さらには可撤性補綴装置であるデンチャー製作へと応用範囲を拡大している。とくにフルデンチャーにおいては、口腔内スキャナーやラボスキャナーの精度向上、CADソフトウェアの進化、ミリングおよび3Dプリント技術の発達により、従来アナログ工程が中心であった製作プロセスにデジタルワークフローを導入する環境が整いつつある。

一方で、フルデンチャーは支台歯をもたず、粘膜支持に依存する補綴装置であるという特性から、固定性補綴装置とは異なる設計思想が求められる。咬合力は顎堤および粘膜へと分散され、さらに筋圧や顎運動といった動的要素が機能に大きく関与する。このような複雑な条件下では、単純なデジタル工程への置換のみで良好な結果を得ることは困難である。

さらに重要なのは、デジタル化が単なる製作手法の変化に留まらず、歯科医院と歯科技工所の関係性そのものを変化させている点である。従来の模型と指示書を中心とした一方的な情報伝達から、デジタルデータを介した双方向的かつリアルタイムな連携へと移行しつつある。

本稿では、デンチャーマテリアル「Trusana」と歯科用3Dプリンタ「ASIGA MAX2」(図1)を用いた、デジタルフルデンチャー製作における設計思想を整理し、歯科医院との連携を含めた臨床的意義について、歯科技工士の視点から考察する。



Trusanaの特徴と使用所感

デジタル連携について触れる前に、今回使用したTrusanaについて特徴を述べる。

Trusanaは、ウレタン系のUDMAをベースにし、酸性と疎水性のモノマーを組み合わせた新しいデンチャーマテリアルである。分

続きは以下URLよりお申し込みください。



https://www.forest-one.co.jp/data/dl_dd_suguremono_trusana/